平成17年度　8020公募研究報告書抄録

報告書名：就学前にのみ行ったフッ化物洗口法の永久歯う蝕予防効果と、小・中学校でのフッ化物洗口法実施に関する調査研究

研究者名：飯嶋理[1)]、青島孝之[1)]、村野雅彦[2)]、長谷川義仁[2)]、井出善仁[2)]、中村宗達[3)]、井村広美[4)]、安藤雄一[5)]

所　　属：[1)] 静岡県歯科医師会、[2)] 富士宮市歯科医師会、[3)] 静岡県東部健康福祉センター、[4)] 静岡県富士健康福祉センター、[5)] 国立保健医療科学院

［緒言］ 静岡県では、永久歯のう蝕予防対策として、集団でのフッ素洗口の普及を推進している。フッ素洗口は、幼稚園･保育園から小中学校まで継続して実施することで最も効果が発揮されるが、諸般の事情により幼稚園･保育園での実施にとどまり、小学校での実施につながらないケースもある。芝川町においても平成7年度から町内全保育園（町内に幼稚園はない）で年中・年長児に対してフッ素洗口を実施しているが、小・中学校では未実施である。

このため、芝川町におけるフッ素洗口事業の評価として、幼児期に実施したフッ素洗口の恩恵を受けると考えられる第一大臼歯に着目し、フッ素洗口を経験した町内園出身者とフッ素洗口を経験していない町外園出身者の第一大臼歯のう蝕有病状況を比較した。

［目的］ 芝川町のフッ素洗口事業を評価する。

［方法］・調査方法　学校における歯の検査結果から、小学1年から小学6年までの各学年における「小学1年時に萌出していた第一大臼歯のう蝕歯率」を町内園出身者と町外園出身者間で比較する。

・データ分析　平成17年度における芝川町内の小学5年生から中学2年生の学校における歯の検査結果413人分のうち、小学1年時に第一大臼歯が萌出していた者307人分(うち町内園出身者177人、町外園出身者130人)の小学校各学年時における第一大臼歯のう蝕の有無を比較した。

［結果］ フッ素洗口を経験した町内園出身者のほうが、フッ素洗口を経験していない町外園出身者より、小学1年時から6年時まで全ての学年において、第一大臼歯のう蝕歯率が有意に低かった。

＜第一大臼歯う蝕歯率＞

	小1時 *	小2時 **	小3時 ***	小4時 *	小5時 ***	小6時 *
町外園	3.3%	8.1%	13.6%	15.7%	23.0%	22.3%
町内園	1.4%	4.0%	7.1%	11.1%	13.5%	15.9%

＊: $p<0.05$　＊＊: $p<0.01$　＊＊＊: $p<0.001$　（χ^2検定）

［考察］ 第一大臼歯は咬み合わせの中心となり、また噛む力も一番強く、永久歯列の中で非常に重要な歯である。今回の調査では、芝川町において、幼児期2年間のみフッ素洗口を実施した場合の、この第一大臼歯へのう蝕予防効果を示すことができた。

但し、この幼児期**2**年間では、第一大臼歯が未萌出や萌出途中の者もいるため、フッ素洗口による効果は、小・中学校まで実施した場合の高い予防効果に比較すると、まだ少し効果が出始めたところ、という程度である。また、当然ながら幼児期に実施するフッ素洗口では、その後小・中学校時代に続々と生えてくる永久歯に対してのう蝕予防効果はない。

今後、本調査結果をきっかけに、保育園での実施に加え、小・中学校でのフッ素洗口実施につなげたい。